

第3回 東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会

議事録

日時 平成29年1月10日(火)

午後4時00分から6時00分まで

場所 豊橋市職員会館3階302会議室

■次 第

1. 議事

東三河人口ビジョン（案）及び東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

■発言要旨

発言者	要旨
石川委員	<ul style="list-style-type: none">前回の案と比べ、施策とそれに対する事業が明確になっていると思う。DMOに関して、市町村長の意見や議会での議論はあったのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none">市町村長も DMO の必要性は理解している。この地域に合った具体的な DMO の形を、今後検討していく必要があるという意見であった。広域連合議会みらい広域委員会においても、「DMO が核となって総合戦略の事業を推進すべき」など、DMO に期待する意見が数多くあった。
松井会長	<ul style="list-style-type: none">現行の東三河広域観光協議会のままではよろしくない。自らの権限でその予算を執行できる本当の意味での DMO を作ることが重要である。
高橋委員	<ul style="list-style-type: none">東三河は、観光に特化した DMO ではなく、地域づくり、地域経済の発展を目指す DMO をつくるべきである。DMO の説明内に「地域経済の成長を図る」の文言を入れてほしい。東三河には東三河広域経済連合会、愛知県東三河広域観光

	協議会、東三河広域連合と東三河を単位とした組織が既にある。官民が連携しやすい。
小林委員	・DMO の推進にあたって、最終的にはどこが予算を持ち、どこが中心となってやっていくのかが重要である。
高橋委員	・広域連合や経済連合は政策を作るところである一方で、DMO は実動部隊として具体的な事業を展開しつつ経営を如何に成り立たせるかが重要である。
瀬野委員	・東三河の地域内においても、東三河の情報が不足しており、東三河のことを知らない。 ・8市町村長が意思統一を図らないと、施策は続いていかないと思う。
安彦委員	・DMO については、各地域の観光担当者の雇用を確保しながら、慎重にやっていく必要があると思う。
鈴木委員	・DMO について、どこの組織が引っ張っていくのか、誰がやっていくのかというところが重要であるが、それがしっかりと確立できれば、東三河の目指す DMO ができると思う。
神谷委員	・前回、事業として記載のあった「地域包括ケアビジョンの策定」が削除されている。その内容が「介護保険事業の統合」に含まれるとしても、地域包括ケアシステムを推進するうえで、ビジョンを策定することは重要なので、それがわかるように記載してほしい。
高瀬委員	・地域包括ケアシステムができても、実際に介護を行うのは事業者ではないのか。
神谷委員	・今まで介護事業者が行っていたが、これからは自治会、ボランティアなどと連携し、地域づくりをしながら包括ケアをやっていくことになる。
松井会長	・具体的に誰が何をどうやるのかが見えない。例えば、若者の人材還流について、この事業の推進母体は誰になるのか。
事務局	・総合戦略の推進母体は広域連合である。ただし、広域連合だけでできるものではない。現時点でははつきりと固まっていないが、経済界、観光団体などと連携しながら進めしていく必要がある。
松井会長	・行政の施策、経済界の施策など、情報をいち早く収集して、相乗効果を出しながらやっていくことが広域連合の役割で

はないかと思う。今は決まっていないのはわかるが、決まっていくプロセスを示すことが重要であると思う。

- 小林委員
- ・物産展などは、市が主体で行ったり会議所が主体で行っている。統一的に行えば費用もかからない。どこが責任をもってやるか決めてやっていくべきである。
 - ・総合戦略に記載の事業についても、主体を決めて、PDCAサイクルをしっかりと回していかなければいけない。
- 安彦委員
- ・新城市が行っている「中学生議会」において、地元の企業を知らないという話があり、中学生を対象とした企業展を開催したところ、効果があったと聞いている。
 - ・東三河の高校生、大学生を対象とした企業説明会を開催するとあるが、中学生を対象とした事業を展開しても効果があると思う。
- 瀬野委員
- ・中学生の頃から、その親も含めて、東三河の企業情報を発信していくことが重要だと思う。
- 高橋委員
- ・総合戦略を推進するにあたって、ロードマップやアクションプランのようなものが書き込めるとよい。
- 松井会長
- ・総合戦略が出来上がったあとは、具体的にどう進めていくのか。
- 事務局
- ・総合戦略に記載のすべての事業がすぐに展開できるわけではない。財源的な制約もあれば、8市町村の議決のもと、規約に書き込まないとできない事業もあるので、できる事業から行っていきたい。
 - ・この推進協議会についても、来年度以降も継続して行い、事業の進捗状況や経過報告を行っていくと考えている。その中で、事業の追加や変更などの意見を伺いながら、創生本部に諮り、見直しを行っていく。事業の推進母体についても今後検討していく。
- 松井会長
- ・物産展だけでなく、地域の魅力も併せて発信していくということはこれまでなかったことだと思う。これを推進していく母体が広域連合だと思う。この視点をもう少し盛り込んでいただきたい。
- 石川委員
- ・住みやすい、子育てしやすいという情報を入れていただきたい。政策情報をまとめて発信するというコーディネータ
-

一的な役割が広域連合にはあると思う。

鈴木委員

- ・中学生対象の事業については、お金もかからないし、すぐにでもできて効果的な事業だと思われる所以、東三河でもやっていってはどうか。

松井会長

- ・中学生に対して事業を展開することは、時間がかかるかもしないが、それが一番近道かもしれない。

神谷委員

- ・地域の魅力を発信するのは、やはりそこにいる「人」である。住む人の「生の声」が必要とされている。それを発信していくことが東三河に必要であると思う。
- ・まちづくりに中学生を関わらせることが大事だと思う。

石川委員

- ・祭りがあるところには、人が帰ってくると聞く。自分の住んでいるところの魅力を、中学生の頃から伝えていけると、地元に帰ってくる子も増えると思う。
